

哲学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
哲学思想概論	カント哲学入門	2	城戸 淳	3	月曜4限
哲学思想概論	古代哲学史	2	荻原 理	4	木曜2限
現代哲学概論	歴史と他者の哲学－現象学と近現代哲学(2)	2	直江 清隆	3	水曜2限
現代哲学概論	心の哲学入門	2	原 塑	3	水曜4限
現代哲学概論	身体 of 哲学入門－現象学と現代哲学(1)	2	直江 清隆	4	火曜2限
現代哲学概論	言語哲学入門	2	原 塑	4	水曜4限
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン (1)	2	城戸 淳	3	水曜3限
哲学思想基礎講読	ドイツ哲学アンソロジー	2	城戸 淳	3	木曜2限
哲学思想基礎講読	ドイツ価値哲学の文献講読入門	2	直江 清隆	4	火曜5限
哲学思想基礎講読	哲学研究のレッスン (2)	2	原 塑	4	水曜3限
哲学思想各論	哲学的論理学入門	2	大森 仁	5	火曜3限
哲学思想各論	ライプニッツとカント	2	城戸 淳	6	月曜3限
哲学思想各論	哲学的論理学入門	2	大森 仁	6	火曜3限
哲学思想各論	新カント派・心理学派と日本哲学・科学論	2	直江 清隆	6	水曜3限
生命環境倫理学各論	コミュニケーションの政治哲学I	2	原 塑	5	金曜5限
哲学思想演習	D・ルイス『コンヴェンション』講読	2	原 塑	5	月曜2限

哲学

哲学思想演習	アリストテレス『自然学』第4巻の時間論	2	荻原 理	5	火曜2限
哲学思想演習	フッサール現象学研究	2	直江 清隆	5	火曜4限
哲学思想演習	デジタルの哲学 文献講読	2	直江 清隆	5	火曜5限
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	5	水曜5限
哲学思想演習	ドイツ哲学アンソロジー	2	城戸 淳	5	木曜2限
哲学思想演習	アーレント『精神の生』講読	2	森 一郎	5	金曜3限
哲学思想演習	I・M・ヤング『正義と差異の政治』講読	2	原 塑	6	月曜2限
哲学思想演習	アリストテレス『自然学』第4巻の時間論	2	荻原 理	6	火曜2限
哲学思想演習	フッサール現象学研究	2	直江 清隆	6	火曜4限
哲学思想演習	ドイツ価値哲学の文献講読入門	2	直江 清隆	6	火曜5限
哲学思想演習	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	6	水曜5限
哲学思想演習	バーナド・ウィリアムズ『生き方について哲学は何が言えるか』講読	2	城戸 淳	6	木曜2限
哲学思想演習	アーレント『精神の生』講読	2	森 一郎	6	金曜3限
生命環境倫理学演習	コミュニケーションの政治哲学Ⅱ	2	原 塑	6	金曜5限

科目名：哲学思想概論

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB31402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：カント哲学入門

2・授業の目的と概要：この講義はカント哲学への入門である。カント哲学を理解することは難しい。カントは、鋭角的な言葉で事柄の本質を言い当てて伝えようとするのではなく、巨大な概念の構築物を読者の心のなかに作ることでみずから理解せようとするからである。講義では、カント哲学の重要な諸論点について論じることで、カント哲学の感触と全体像をつかんでもらえるようにしたい。

3. 学習の到達目標：カント哲学の感触と全体像をつかむ

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 0 (導入) カントの生涯と学説
——『純粹理性批判』——
- 1 アプリオリな総合判断
- 2 空間と時間
- 3 超越論的演繹論の課題
- 4 因果性 (第二類推)
- 5 観念論論駁
- 6 第三アンチノミーの自由論
- 7 懐疑的方法
——『基礎づけ』と『実践理性批判』——
- 8 仮言命法の分析
- 9 定言命法の諸方式
- 10 規範の演繹と理性の事実
——『判断力批判』——
- 11 趣味判断の無関心と普遍性
- 12 目的なき合目的性
- 13 崇高
——歴史哲学と宗教論——
- 14 カントの平和の歴史哲学
- 15 認証的弁神論

5. 成績評価方法：数回のコメントと期末レポート

6. 教科書および参考書：クラスルームに掲載する

7. 授業時間外学習：予習・復習としてクラスルームの資料を読む。紹介した参考文献を読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想概論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LB44202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：古代哲学史

2・授業の目的と概要：・古代ギリシャ哲学のうち、ミレトス学派からソクラテス、プラトン、アリストテレスを経てヘレニズム哲学、プロティノスまでの主要な論点を学び、そのいくつかについては自分なりに考えてみることで理解を深める。
・講義だが、質問・意見を積極的に出してもらおう（質疑応答は哲学の問題や主張を理解していくための重要なプロセスなので）。わかりにくい点はできればその場で質問してほしいが、次回（以降）でもよい。

3. 学習の到達目標：・ミレトス学派からプロティノスまでの西洋古代哲学史の主要な論点について正確に説明できるようになる。
・いくつかの論点については、自分なりに論じることができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロ
ミレトス学派。クセノファネス。ピュタゴラス（1）
2. ピュタゴラス（2）。ヘラクレイトス。ゼノン（1）
3. ゼノン（2）、パルメニデス。エンペドクレス
4. アナクサゴラス、デモクリトス。プロタゴラス、ゴルギアス。ソクラテス（1）
5. ソクラテス（2）、プラトン（1）
6. プラトン（2）
7. プラトン（3）
8. プラトン（4）、アリストテレス（1）
9. アリストテレス（2）
10. アリストテレス（3）
11. アリストテレス（4）
12. エピクロス派（1）、ストア派（1）
13. エピクロス派（2）、ストア派（2）
14. 懐疑派。プロティノス
15. アウグスティヌス（時間があれば）

5. 成績評価方法：リアクション・ペーパー

6. 教科書および参考書：資料はクラスルームで配布する。
参考書は随時紹介する。

7. 授業時間外学習：前回の授業の内容について、わかりにくかった点を質問の形に整理しておく。
（他にも、授業中折に触れて学習課題を指定することがある。）

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

予備知識は特に必要ない。

科目名：現代哲学概論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB33201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：歴史と他者の哲学-現象学と近現代哲学(2)

2・授業の目的と概要：この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「懐疑と相対主義」「理性と歴史」「説明と理解」「他者理解」「異文化理解」などの重要な問題に沿って検討を進める。

3. 学習の到達目標：現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、世界、他者、歴史などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つけことを目標に、哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ。ハイデガー、ガダマー、フッサールなどを取り上げる予定です。

1. 哲学と問い
2. ロゴス 西洋哲学の伝統と脱構築
3. 懐疑と相対主義
4. デカルトの懐疑とバーチャル空間
5. 身体という問題圏
6. 身体という謎
7. 生きた身体と世界
8. AI の世界と身体
9. ロボットと認知
10. 幕間：近代的理性への叛逆
11. 生命と身体
12. 生命と環境
13. 言語、身体と社会(1)
14. 言語、身体と社会(2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点 30% レポートないし試験（問題は事前公開）70%

6. 教科書および参考書：開講時の他、随時授業中に紹介します。

7. 授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。
また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代哲学概論

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 塑

コード：LB33401, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：心の哲学入門

2・授業の目的と概要：心の哲学は 20 世紀半ば以降、英米圏を中心に大きく研究が進展してきた分野である。この授業では、心の哲学で展開された議論を紹介しながら、心の様々な性質—心の因果性、現象的意識、心の志向性、心の合理性—を順に分析していく。講義形式で授業を行うが、学期中数回、演習問題ととりくんでもらう。

3. 学習の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。

2. 心や意識についての現代的議論を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。

学期を通じた授業の構成は以下の通りである。

1. はじめに
2. 心の因果性 1
3. 心の因果性 2
4. 心の因果性 3
5. 心と意識 1
6. 心と意識 2
7. 心と意識 3
8. 心の志向性 1
9. 心の志向性 2
10. 心の志向性 3
11. 心の合理性 1
12. 心の合理性 2
13. 心の合理性 3
14. 心に関する諸問題
15. まとめ

5. 成績評価方法：課題の提出（60％）、テスト（40％）

6. 教科書および参考書：金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007 年

7. 授業時間外学習：授業用スライドを、Google Classroom にアップロードするので、内容を確認するように。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代哲学概論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB42202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：身体の哲学入門-現象学と現代哲学(1)

2・授業の目的と概要：この授業では、近現代の大陸哲学の基本概念を学ぶ。その際、歴史順に概観するのではなく、「懐疑と相対主義」「身体」などの重要な問題に沿って検討を進める。

3. 学習の到達目標：現代哲学の意義について理解し、自分なりの考えを持てるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

現象学をはじめとする大陸哲学を題材に、世界、他者、歴史などに関する問いの所在と解決の方途を検討します。現代哲学の話題について学びつつ、自ら哲学するための手がかりを見つけことを目標に、哲学者としてはレーヴィット、ヘルダー、ヘーゲル、ディルタイ。ハイデガー、ガダマー、フッサールなどを取り上げる予定です。

1. 哲学と応用倫理 ケアという問題
2. 物的身体と生きた身体 コミュニケーションの可能性
3. 自己とナラティブ的な同一性
4. 他者という謎(1)
5. 他者という謎(2)
6. 他者という謎(3)
7. ロボットとのコミュニケーション
8. 知識と歴史主義(1)
9. 知識と歴史主義(2)
10. 「歴史科学」の特質
11. 「精神科学」の特質
12. 異なるものの理解(1)
13. 異なるものの理解(2)
14. テキストと作者
15. まとめ

【必要に応じてテーマを一部差し替えるすることがあります】

コメントメーバーにより、議論の要点と自分の考えを簡単にまとめるようにし、最終的には、レポートが書けるだけの能力を身につけられるようにします。また、今回の授業ではワークシートを用意し、短いテキスト、そのテキストが書かれた背景、とのテキストで問われていること、テキストの主張、その主張に対する批判、現代の問題との繋がりでどう考えるかなどにつ

いて説明し、自ら考え、議論するようにします。(1)

5. 成績評価方法：平常点 30% レポートないし試験（問題は事前公開）70%

6. 教科書および参考書：開講時の他、随時授業中に紹介します。

7. 授業時間外学習：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介するので、それらを再読し、上記教科書で位置づけを理解し、自分なりに捉え直してみる作業を繰り返して下さい。

また、その内容に基づいて予習を指示することもあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代哲学概論

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 塑

コード：LB43402, **科目ナンバリング：**LHM-PHI206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語哲学入門

2・授業の目的と概要：20 世紀以降、英米圏を中心に展開している分析哲学は、哲学的問題への取り組みが言語を用いてなされていることに着目し、言語の働きを分析することで哲学的問題に答えようとする。このため、分析哲学では、言語の基礎的現象、例えば、言語表現が何かを指示したり、意味したりすることができるのはなぜかを明らかにすることが重要な課題となった。この講義では、言語の指示や意味、あるいは発話の理解といったテーマに関して、分析哲学で行なわれてきた議論を概観する。

3. 学習の到達目標：1. 概念や論証を分析する技術を習得する。
2. 指示や意味についての哲学的議論を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、対面とオンライン（オンデマンド型）を併用して実施する。
以下の項目を順番に講義する。

1. はじめに
2. 指示と意味
3. 記述の理論 1
4. 記述の理論 2
5. 固有名 1
6. 固有名 2
7. 様々な真理概念 1
8. 様々な真理概念 2
9. 可能世界 1
10. 可能世界 2
11. 名指しと必然性 1
12. 名指しと必然性 2
13. 検証主義
14. 真理条件説
15. まとめ

5. 成績評価方法：課題の提出（60%）、テスト（40%）

6. 教科書および参考書：服部裕幸『言語哲学入門』2003 年、勁草書房

Papineau, D. 2012. Philosophical Devices: Proofs, Probabilities, Possibilities, and Sets. Oxford University Press.

7. 授業時間外学習：授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされます。授業内容を理解するために参考書を見てみてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想基礎講読

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：城戸 淳、直江 清隆

コード：LB33305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (1)

2・授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている論証や考察をまとめ、それにもとづいて発表や発表する力を身につけるためのものです。最初の 10 回程度は、教員が指定した題材をもとに、レジュメを作成・発表したり、それをもとに議論する訓練を行います。最後の 5 回程度は、みなさんの各自の問題関心にもとづいた研究発表を行ってもらい、それをもとに討論します。

3. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (1)
3. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (2)
4. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (3)
5. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (4)
6. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (5)
7. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (6)
8. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (7)
9. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (8)
10. 哲学・倫理学の入門的テキストの講読 (9)
11. 発表と討論 (1)
12. 発表と討論 (2)
13. 発表と討論 (3)
14. 発表と討論 (4)
15. 発表と討論 (5)

5. 成績評価方法：報告、討論、コメントによる平常点 (60%) と、最後の発表・レポート (40%) で評価します。

6. 教科書および参考書：必要なものは掲載・配布します。参考書等は演習内で指示します。

7. 授業時間外学習：事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当では、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。哲学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員と相談してください。この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

科目名：哲学思想基礎講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB34203, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ドイツ哲学アンソロジー

2・授業の目的と概要：18～20 世紀のドイツ語による代表的な哲学の文章を選び、各回に 1 ページ程度読む。ドイツ哲学の多面性を語学的にも体感できるようにしたい。

3. 学習の到達目標：多彩なドイツ語の哲学の文章を読む力を養うこと

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(下記はテキストの候補 (予定))

I. Christian Wolff, Vernünfftige Gedancken von den Kräfften des menschlichen Verstandes und ihrem richtigen Gebrauche in Erkänntniss der Wahrheit, 1754 (1713).

II. Christian Wolff, Vernünfftige Gedancken von Gott, der Welt und der Seele des Menschen, auch allen Dingen überhaupt, 1751 (1720).

III. Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, 1781 / 1787.

IV. Immanuel Kant, Grundlegung zur Metaphysik der Sitten, 1785.

VI. Immanuel Kant, Kritik der praktischen Vernunft, 1788.

VII. Johann Gottlieb Fichte, Grundlage der gesamten Wissenschaftslehre, 1794/1795.

VIII. G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, 1807.

IX. Arthur Schopenhauer, Die Welt als Wille und Vorstellung, Bd. I, 1819 / 1844.

X. Friedrich Nietzsche, Also sprach Zarathustra, I, 1883.

XI. Edmund Husserl, Ideen zu einer reinen Phänomenologie und phänomenologischen Philosophie, Bd. I, 1913.

XII. Edmund Husserl, Die Krisis der europäischen Wissenschaften und die transzendente Phänomenologie, 1936.

XIII. Martin Heidegger, Sein und Zeit, 1927.

XIV. Ludwig Wittgenstein, Philosophische Untersuchungen, Teil I, 1945.

XV. Max Horkheimer / Theodor W. Adorno, Dialektik der Aufklärung: Philosophische Fragmente, 1947.

5. 成績評価方法：授業での訳読の成果と討論への貢献による

6. 教科書および参考書：講読テキストをクラスルームに掲載する

7. 授業時間外学習：予習し、授業で確認して、復習する。その反復で上達します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

ドイツ語の初等文法を履修済みであることが必須 (ただし自習で詰め込んで臨んでもよい)。

科目名：哲学思想基礎講読

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB42504, 科目ナンバリング：LHM-PHI214J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ価値哲学の文献講読入門

2・授業の目的と概要：シェーラーの「自由の現象学と形而上学(Zur Phänomenologie und Metaphysik der Freiheit.)」は、価値哲学の観点から、現象学の根底にある自由についてを展開したテキストとして重要です。同時に、因果性や自由に関する広い視点からの考察がなされており、20 世紀初頭のドイツ哲学を理解する上で非常に有用なものだといえます。この講読では、シェーラーのテキストを精読することを通じて、前期で培った文献講読の基礎的能力を発展させ、20 世紀のドイツ哲学の基本問題と、シェーラーの独自の展開をて読み解くことを目指します。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた哲学のテキストの内容を正確に把握できるようになる。
20 世紀のドイツ哲学の問題状況を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション（テキスト、著者の紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第 2 回～第 15 回：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：報告、討議、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：Max Scheler, Zur Phänomenologie und Metaphysik der Freiheit (Max Scheler Gesammelte Werke, Bd. 10) を用います。テキストのコピーを配布します。

7. 授業時間外学習：予習を欠かさずに授業に臨んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想基礎講読

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 塑

コード：LB43304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI214J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学研究のレッスン (2)

2・授業の目的と概要： この演習は、哲学・倫理学の英語文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキストをもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。倫理学の小松原先生と哲学の原が、ほぼ半分ずつ担当します。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します。

3. 学習の到達目標：(1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。
(2) 哲学・倫理学の英語文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業のみ

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)
3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)
4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)
5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)
6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)
7. 哲学の入門的テキストの講読(1)
8. 哲学の入門的テキストの講読(2)
9. 哲学の入門的テキストの講読(3)
10. 哲学の入門的テキストの講読(4)
11. 哲学の入門的テキストの講読(5)
12. 発表と討論(1)
13. 発表と討論(2)
14. 発表と討論(3)
15. 発表と討論(4)

5. 成績評価方法： 報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

6. 教科書および参考書： 必要なものは配布します。

参考書は演習内で指示します。

7. 授業時間外学習： 事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受けるようにして下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します。

倫理学専修の 2 年生はこの水 3 の授業を必ず履修するようにしてください。他の専修の方は事前または初回時に教員とご相談ください。

科目名：哲学思想各論

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大森 仁

コード：LB52303, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学的論理学入門

2・授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

3. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

6. 教科書および参考書：講義中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想各論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB61302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ライプニッツとカント

2・授業の目的と概要： ドイツのバロック期を代表する哲学者であるライプニッツは、近代では最大規模といえる形而上学を構想したが、その思想的遺産はヴォルフやバウムガルテンによって通俗化されて、18 世紀の啓蒙期のドイツ講壇哲学へと受け継がれ普及した。カントは、このライプニッツ＝ヴォルフ哲学の伝統に育まれて、しかしついにはそれを超克する哲学的努力のなかで、みずからの批判哲学を構築したのである。

この講義では、ライプニッツ哲学の骨格を把握するとともに、その継承と超克という比較哲学史の観点からカント哲学を考察する。なお以下の授業計画は論点を列挙したもので、実際の授業では進捗に応じて論点を絞って講ずる予定である。

3. 学習の到達目標：ライプニッツとカントの学説を学ぶとともに、両者の哲学的な対立構造を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ライプニッツからカントへ——ドイツ哲学史瞥見
- 2 感性と知性との区別——判明性から起源へ
- 3 空間と時間——関係か形式か
- 4 不可識別者同一の原理と不一致対称物
- 5 モナドと内的なもの
- 6 述語の主語内在説と総合的判断
- 7 単純者と無限分割の問題
- 8 充足理由律とアプリアリな総合判断
- 9 意識知覚（aperception）と統覚（Apperzeption）
- 10 予定調和と認識の客観的実在性
- 11 人間の自由をめぐる——可能世界論と絶対的自発性
- 12 神の存在証明——必然性の問題
- 13 完全性と自律——ドイツ啓蒙の倫理学
- 14 ライプニッツ派のカント批判
- 15 カント＝エーバーハルト論争

5. 成績評価方法：数回の小レポートと期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：引用資料をクラスルームに掲載する。その他の参考文献等は授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：講義で紹介した哲学書をみずから読むことを試みてください。事前に自分で読むなら、ライプニッツは『モナドロロジー・形而上学叙説』（中公クラシックス、2005 年）あるいは『モナドロロジー 他 2 編』（谷川・岡部訳、岩波文庫、2018 年）から、カントは『純粋理性批判』（訳は各種あるので入手可能なものでよい）の「反省概念の二義性」から始めるとよいでしょう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想各論

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大森 仁

コード：LB62302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：哲学的論理学入門

2・授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、直観主義論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。

3. 学習の到達目標：直観主義論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 直観主義論理の形式言語
- [3] 直観主義論理の意味論 (1)
- [4] 直観主義論理の意味論 (2)
- [5] 直観主義論理の意味論 (3)
- [6] 直観主義論理の意味論 (4)
- [7] 直観主義論理の証明体系 (1)
- [8] 直観主義論理の証明体系 (2)
- [9] 直観主義論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [10] 直観主義論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [11] 直観主義論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [12] 直観主義論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [13] 直観主義論理に関連する哲学的話題 (1)
- [14] 直観主義論理に関連する哲学的話題 (2)
- [15] まとめ

5. 成績評価方法：期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

6. 教科書および参考書：講義中に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想各論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB63302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：新カント派・心理学派と日本哲学・科学論

2. 授業の目的と概要：新カント派・心理学派を概観し、日本哲学への影響を論じる

3. 学習の到達目標：新カント派の哲学について理解し、現代とのつながりについて自分なりの考えを持てるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

新カント派（および心理主義）は 20 世紀初頭の哲学界を席卷し、また草創期の日本哲学に大きな影響を与えたが、近年また注目されるようになってきている。認識論（科学論を含む）及び価値哲学が中心である。この講義では、それらの代表的な議論を紹介し、合わせて日本哲学への受容について論じる。講義となっているが、短い文献を読んでいく過程も含まれる。

1. 新カント派（および心理主義）と日本哲学
2. 新カント派の勃興と H・ロツツェ
3. マールブルグ学派の認識論(1)
4. マールブルグ学派の認識論(2)
5. マールブルグ学派の認識論(3)
6. マールブルグ学派の認識論(4)
7. 心理主義と判断論(1)
8. 心理主義と判断論(2)
9. 西南学派の価値哲学(1)
10. 西南学派の価値哲学(2)
11. 西南学派の価値哲学(3)
12. 西南学派の価値哲学(4)
13. 西南学派と美学
14. 新カント派と日本哲学
15. 新カント派と現代の日本哲学

5. 成績評価方法：レポートで評価する。

6. 教科書および参考書：授業時に参考資料を配付し、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：授業教材は、Google Classroom の授業用サイトにアップロードされるので、基本事項の解説をもとに必ず振りかえってみていただきたい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：生命環境倫理学各論

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 壘

コード：LB55501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：コミュニケーションの政治哲学 I

2・授業の目的と概要：応用倫理学の諸分野では、社会の中で人間が行っている活動に対して「～するべきである」「～するべきでない」「～するのが望ましい」「～するのが望ましくない」といった部分を含む様々な道徳的命題を生み出されます。こういった道徳的命題は人々に対して指令の意味を持つため、道徳的命題の中で述べられている望ましい事態の実現を促し、望ましくない事態の実現を妨げるように人々を動かします。では、道徳命題に動かされない人々に対して、道徳命題の正しさを信じ、そういった命題を操る人々は、どのような態度を取るべきでしょうか。法や規則を作って道徳命題に動かされない人々を縛るべきだ、そうではないにしても言葉で厳しく批判して、道徳的命題に従わせるべきだ、と言えるのでしょうか。もしそうなら、なぜそう言えるのでしょうか。ここでは、こういった問題を考えるために、リチャード・ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』を日本語訳を使って読解します。前期には第 II 部「アイロニズムと理論」を扱います。

3. 学習の到達目標：1. 哲学的な概念分析の手法に習熟する。

2. 科学的命題や道徳的命題のコミュニケーション手法を考える際に、科学や道徳の偶然性を考慮に入れることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン同期授業として実施する。

1. イントロダクション

2～15. ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』の講読

5. 成績評価方法：授業中の課題に取り組む（60％）、レポート（40％）

6. 教科書および参考書：リチャード・ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』齋藤純一他訳、岩波書店、2000 年

7. 授業時間外学習：教科書に目を通すとともに、必要に応じて、関連文献を調べておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：原 塑

コード：LB51206, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：D・ルイス『コンヴェンション』講読

2・授業の目的と概要：社会制度の分析にゲーム理論を応用する研究は、1970 年代以降、盛んに行われているが、デイヴィッド・ルイスの『コンヴェンション』（1969）は、その試みの嚆矢となった作品である。この授業では、『コンヴェンション』の邦訳を使って、ルイスの制度論の構想を読解するとともに、その射程を検討する。

3. 学習の到達目標：1. 哲学的な概念分析の手法に習熟する。
2. その上で、ゲーム論的制度分析の哲学的基礎を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン同期授業として実施する。

1. イントロダクション

2～15. ルイス『コンヴェンション』の講読

5. 成績評価方法：授業中の課題に取り組む（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：デイヴィッド・ルイス『コンヴェンション：哲学的探究』瀧澤弘和訳、慶應義塾大学出版会、2021 年

7. 授業時間外学習：デイヴィッド・ルイス『コンヴェンション』に目を通すとともに、必要に応じて、関連文献を調べておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LB52208, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アリストテレス『自然学』第 4 巻の時間論

2・授業の目的と概要：アリストテレス『自然学』第 4 巻第 10-14 章の時間論の原語（古代ギリシャ語）テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。今学期は第 10 章冒頭から、順調にいけば第 11 章末くらいまで進むであろう（続きは次学期）。主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。

3. 学習の到達目標：アリストテレス『自然学』の時間論ならびにその重要な諸解釈を正確に理解する。それらについて説明し批判的に検討できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった点などを述べる。それをもとに皆で議論する。

校訂本は W. D. Ross, ARISTOTLE'S Physics: A REVISED TEXT WITH INTRODUCTION AND COMMENTARY (Oxford, 1936) 所収のものをを用いる。

適宜参照する日本語訳は、岩波書店新アリストテレス全集 4 の『自然学』内山勝利訳（2017 年）。英訳は Edward Hussey, ARISTOTLE: Physics BOOKS III AND IV (Oxford, 1983) 所収のものと、Jonathan Barnes (ed.), THE COMPLETE WORKS OF ARISTOTLE: THE REVISED OXFORD TRANSLATION, volume one (Princeton UP, 1984) 所収の R. P. Hardie & R. K. Gaye 訳。

適宜参照する注釈は、上掲の内山訳に所収のもの、上掲の Ross の本に所収のもの、上掲の Hussey の本に所収のもの。

1. イントロ

『自然学』第 4 巻

第 10 章 217b29-32 [今回のみ予習不要]

2. 第 10 章 217b32-218a3

3. 第 10 章 218a3-11

4. 第 10 章 218a11-19

5. 第 10 章 218a19-30

6. 第 10 章 218a30-b9

7. 第 10 章 218b9-20

8. 第 11 章 218b21-219a1

9. 第 11 章 219a1-10

10. 第 11 章 219a10-21

11. 第 11 章 219a21-b2

12. 第 11 章 219b2-18

13. 第 11 章 219b18-33

14. 第 11 章 219b33-220a11

15. 第 11 章 220a12-26

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：授業時にプリントを配布する

7. 授業時間外学習：次回に読む箇所を原語で読む（適宜、日本語訳や英訳を参照しながら）。内山、Ross, Hussey の注解を読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

古代ギリシャ語の初等文法を一通り学んでいることが参加の条件。ただし、覚え残しがあっても構わない。

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フッサール現象学研究

2・授業の目的と概要：「現象学的還元」は現象学を特徴づける根本概念の一つである。この授業では、この概念について主題的に書かれたフッサールの著『イデーン』第2編を丹念に読み、現象学的の根本枠組を理解することを目的とする

3. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における自然的態度や還元の役割について論じることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の第2編を読んで枠組を確認する。授業では議論をていねいに読み解きながら、フッサールの議論を検討する。

原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時に基本概念の意義について議論する。

1、イントロダクション（テキスト、著者の紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

2、『イデーン』第2編 読解（1）

3、『イデーン』第2編 読解（2）

4、『イデーン』第2編 読解（3）

5、『イデーン』第2編 読解（4）

6、中間まとめ1 自然的態度について

7、『イデーン』第2編 読解（5）

8、『イデーン』第2編 読解（6）

9、『イデーン』第2編 読解（7）

10、『イデーン』第2編 読解（8）

11、中間まとめ2 『イデーン』の基幹図について

12、『イデーン』第2編 読解（9）

13、『イデーン』第2編 読解（10）

14、『イデーン』第2編 読解（11）

15、まとめ

5. 成績評価方法：レポート 50%

平常点 50%（討論などを含む）

6. 教科書および参考書：E. Husserl. "Ideen zu einer reinen Phaenomenologie und phaenomenologischen Philosophie" (Husserliana III),.

テキストは授業時に配布する（ペーパーバック）

英訳として、Ideas : general introduction to pure phenomenology translated by W.R. Boyce Gibson

邦訳として『イデーン—純粋現象学と現象学的哲学のための諸構想（1-1

7. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での報告や議論をもとに、振り返って考察する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB52506, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デジタルの哲学 文献講読

2. 授業の目的と概要：現代のデジタルの哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

3. 学習の到達目標：・デジタルの哲学の基本概念について説明をすることができる。

・デジタルの哲学の孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

デジタルについての哲学がさかんになっている。この授業では、Mark Coeckelbergh, *Moved by machines* ないし Alberto Romel, *Digital Habitus: A Critique of the Imaginaries of Artificial Intelligence* を読解することを通じて、その概要の理解を試みる。分担して英文のテキストを読むことになる。

第1回 導入（デジタル哲学の概要、進め方、分担決め）

第2回から第15回 テキストの読解と議論

5. 成績評価方法：レポート（報告を含む） 80% 授業への参加（討論）20%

6. 教科書および参考書：Mark Coeckelbergh, *Moved by machines: performance metaphors and philosophy of technology*, 2019

Alberto Romel, *Digital Habitus: A Critique of the Imaginaries of Artificial Intelligence*, 2024

参考書 M. クーケルバーク『デジタルテクノロジーと時間の哲学』直江清隆，佐藤駿，鹿野祐介訳，丸善出版，2024

7. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB53504, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究

2・授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』（1781/87 年）をドイツ語原文で読む。今年度は（昨年度にひきつづき）アンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメントリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。新しい参加者がいれば導入に配慮する。

3. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読（今年度は第三節「関心」節からの予定）

第二章 純粋理性のアンチノミー

第一節 宇宙論的理念の体系

第二節 純粋理性の背反論

超越論的理念の第一の抗争

第一アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第二の抗争

第二アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第三の抗争

第三アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第四の抗争

第四アンチノミーに対する注解

第三節 これらの抗争における理性の関心について

第四節 端的に解決されうるはずであるかぎりの、純粋理性の超越論的課題について

第五節 四つの超越論的理念すべてをつうじて生じる宇宙論的問いの懐疑的な表象

第六節 宇宙論的弁証論を解決するカギとしての超越論的観念論

5. 成績評価方法：訳読、報告、討議、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

（他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。）

7. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修はドイツ語の初等文法を修得した者にかぎる（1 か月程度の自習で臨んでもよい）。

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB54210, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ哲学アンソロジー

2・授業の目的と概要：18～20 世紀のドイツ語による代表的な哲学の文章を選び、各回に 1 ページ程度読む。ドイツ哲学の多面性を語学的にも体感できるようにしたい。

3. 学習の到達目標：多彩なドイツ語の哲学の文章を読む力を養うこと

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(下記はテキストの候補 (予定))

I. Christian Wolff, Vernünfftige Gedancken von den Kräfte des menschlichen Verstandes und ihrem richtigen Gebrauche in Erkenntniss der Wahrheit, 1754 (1713).

II. Christian Wolff, Vernünfftige Gedancken von Gott, der Welt und der Seele des Menschen, auch allen Dingen überhaupt, 1751 (1720).

III. Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, 1781 / 1787.

IV. Immanuel Kant, Grundlegung zur Metaphysik der Sitten, 1785.

VI. Immanuel Kant, Kritik der praktischen Vernunft, 1788.

VII. Johann Gottlieb Fichte, Grundlage der gesamten Wissenschaftslehre, 1794/1795.

VIII. G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, 1807.

IX. Arthur Schopenhauer, Die Welt als Wille und Vorstellung, Bd. I, 1819 / 1844.

X. Friedrich Nietzsche, Also sprach Zarathustra, I, 1883.

XI. Edmund Husserl, Ideen zu einer reinen Phänomenologie und phänomenologischen Philosophie, Bd. I, 1913.

XII. Edmund Husserl, Die Krisis der europäischen Wissenschaften und die transzendente Phänomenologie, 1936.

XIII. Martin Heidegger, Sein und Zeit, 1927.

XIV. Ludwig Wittgenstein, Philosophische Untersuchungen, Teil I, 1945.

XV. Max Horkheimer / Theodor W. Adorno, Dialektik der Aufklärung: Philosophische Fragmente, 1947.

5. 成績評価方法：授業での訳読の成果と討論への貢献による

6. 教科書および参考書：講読テキストをクラスルームに掲載する

7. 授業時間外学習：予習し、授業で確認して、復習する。その反復で上達します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：森 一郎

コード：LB55304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アーレント『精神の生』講読

2・授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの主著の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

＊教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

3. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第二部『意志』第2章第8節（その1）

第3回：『意志』第2章第8節（その2）

第4回：『意志』第2章第8節（その3）

第5回：『意志』第2章第9節（その1）

第6回：『意志』第2章第9節（その2）

第7回：『意志』第2章第9節（その3）

第8回：中間考察

第9回：『意志』第2章第10節（その1）

第10回：『意志』第2章第10節（その2）

第11回：『意志』第2章第10節（その3）

第12回：『意志』第2章第10節（その4）

第13回：『意志』第3章第10節（その5）

第14回：『意志』第2章第10節（その6）

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

・Hannah Arendt, The Life of the Mind. Two / Willing, Harcourt Brace & Company, 1978

・佐藤和夫訳『精神の生活（下）』岩波書店、1994年

・ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

・ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

・エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アーレント』大島か

7. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

使用言語：日本語

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 塑

コード：LB61205, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：I・M・ヤング『正義と差異の政治』講読

2・授業の目的と概要：I・M・ヤング『正義と差異の政治』第5章「身体の序列化とアイデンティティの政治」で展開される議論を、日本語訳を参照しつつ、主に英語原典を使って読解します。この本は、政治哲学分野における正義論の議論枠組みをロールズ以来の配分の正義から、支配、抑圧、差別の問題に転換させようとした古典的著作です。第5章では、外見を含む身体的特徴の差異に基づく差別が発生する原因を特定し、その解消方法を提案しています。このヤングの議論を検討し、蔓延するルッキズムへの対応方法を考えます。

3. 学習の到達目標：1. 哲学における英語文献の読解に習熟する。

2. ルッキズムをはじめとする差別的習慣の政治的哲学的意味を理解し、その対応方法について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業はオンライン同期型の授業として実施します。

1. イントロダクション

2～15. I. M. ヤング「身体の序列化とアイデンティティの政治」講読

5. 成績評価方法：授業課題（60%）、レポート（40%）

6. 教科書および参考書：I. M. Young, 1990. “Chapter 5: The Scaling of Bodies and the Politics of Identity.” in her *Justice and the Politics of Difference*, Princeton University Press.

7. 授業時間外学習：各回の授業で扱う箇所を読解するとともに、関連文献を調べておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：荻原 理

コード：LB62210, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アリストテレス『自然学』第 4 巻の時間論

2・授業の目的と概要：アリストテレス『自然学』第 4 巻第 10-14 巻の時間論の原語（古代ギリシャ語）テキストをゆっくり、丁寧に読んでいく。前学期に進んだところから（順調にいけば第 11 章末くらいまで進んでいるであろう）続きを読み進め、順調にいけば第 14 章末くらいまで進むであろう。主要な日本語訳・英訳や注解を適宜参照する。内容について議論する。時間があれば二次文献の検討もおこなう。

3. 学習の到達目標：アリストテレス『自然学』の時間論ならびにその重要な諸解釈を正確に理解する。それらについて説明し批判的に検討できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

初回を除く各回のために、読む箇所と担当者をあらかじめ決めておく。授業時、担当者はまずテキストを音読し、次に日本語に訳し、考えたことやわかりにくかった点などを述べる。それをもとに皆で議論する。

校訂本は W. D. Ross, ARISTOTLE'S Physics: A REVISED TEXT WITH INTRODUCTION AND COMMENTARY (Oxford, 1936) 所収のものをを用いる。

適宜参照する日本語訳は、岩波書店新アリストテレス全集 4 の『自然学』内山勝利訳（2017 年）。英訳は Edward Hussey, ARISTOTLE: Physics BOOKS III AND IV (Oxford, 1983) 所収のものと, Jonathan Barnes (ed.), THE COMPLETE WORKS OF ARISTOTLE: THE REVISED OXFORD TRANSLATION, volume one (Princeton UP, 1984) 所収の R. P. Hardie & R. K. Gaye 訳。

適宜参照する注釈は、上掲の内山訳に所収のもの、上掲の Ross の本に所収のもの、上掲の Hussey の本に所収のもの。

前学期の授業で進んだところから続けて読んでいく。もし前学期に第 11 章末まで進んでいたら、今学期は以下のように進む予定。

1. 前学期に読んだ箇所の振り返り
2. 第 12 章 220a27-b5
3. 第 12 章 220b5-14
4. 第 12 章 220b14-32
5. 第 12 章 220b32-221a26
6. 第 12 章 221a26-b23
7. 第 12 章 221b23-222a9
8. 第 13 章 222a10-b7
9. 第 13 章 222b7-29
10. 第 14 章 222b30-223a15
11. 第 14 章 223a15-29
12. 第 14 章 223a29-223b12
13. 第 14 章 223b12-224a2
14. 第 14 章 224a2-17
15. 二次文献の検討

5. 成績評価方法：授業時のパフォーマンスによる

6. 教科書および参考書：授業時にプリントを配布する

7. 授業時間外学習：次回に読む箇所を原語で読む（適宜、日本語訳や英訳を参照しながら）。内山、Ross, Hussey の注解を読む。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

古代ギリシャ語の初等文法を一通り学んでいることが参加の条件。ただし、覚え残しがあっても構わない。

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB62407, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：フッサール現象学研究

2・授業の目的と概要：「現象学的還元」は現象学を特徴づける根本概念の一つである。この授業では、この概念について主題的に書かれたフッサールの主著『イデーン』第2編を丹念に読み、現象学的の根本枠組を理解することを目的とする

3. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。
・現象学の議論における自然的態度や還元の役割について論じることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では前期の内容について概括的な紹介をしたのち、本書の第2編を読んで枠組を確認する。授業では議論をていねいに読み解きながら、フッサールの議論を検討する。

原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時に基本概念の意義について議論する。

- 1、前期の授業の振り返り
- 2、『イデーン』第2編 読解（1）
- 3、『イデーン』第2編 読解（2）
- 4、『イデーン』第2編 読解（3）
- 5、『イデーン』第2編 読解（4）
- 6、中間まとめ1 自然的態度について
- 7、『イデーン』第2編 読解（5）
- 8、『イデーン』第2編 読解（6）
- 9、『イデーン』第2編 読解（7）
- 10、『イデーン』第2編 読解（8）
- 11、中間まとめ2 『イデーン』の基幹図について
- 12、『イデーン』第2編 読解（9）
- 13、『イデーン』第2編 読解（10）
- 14、『イデーン』第2編 読解（11）
- 15、まとめ

5. 成績評価方法：レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

6. 教科書および参考書：E. Husserl. "Ideen zu einer reinen Phaenomenologie und phaenomenologischen Philosophie"(Husserliana III),.

テキストは授業時に配布する(ペーパーバック)

英訳として、Ideas : general introduction to pure phenomenology translated by W.R. Boyce Gibson

邦訳として『イデーン—純粹現象学と現象学的哲学のための諸構想 (1-1

7. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での報告や議論をもとに、振り返って考察する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：直江 清隆

コード：LB62504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ドイツ価値哲学の文献講読入門

2・授業の目的と概要：シェーラーの「自由の現象学と形而上学(Zur Phänomenologie und Metaphysik der Freiheit.)」は、価値哲学の観点から、現象学の根底にある自由についてを展開したテキストとして重要です。同時に、因果性や自由に関する広い視点からの考察がなされており、20 世紀初頭のドイツ哲学を理解する上で非常に有用なものだといえます。この講読では、シェーラーのテキストを精読することを通じて、前期で培った文献講読の基礎的能力を発展させ、20 世紀のドイツ哲学の基本問題と、シェーラーの独自の展開をて読み解くことを目指します。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた哲学のテキストの内容を正確に把握できるようになる。
20 世紀のドイツ哲学の問題状況を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション（テキスト、著者の紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）

第 2 回～第 15 回：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：報告、討議、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：Max Scheler, Zur Phänomenologie und Metaphysik der Freiheit (Max Scheler Gesammelte Werke, Bd. 10) を用います。テキストのコピーを配布します。

7. 授業時間外学習：予習を欠かさずに授業に臨んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB63504, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究

2・授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』（1781/87 年）をドイツ語原文で読む。今年度は（昨年度にひきつづき）アンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメントリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。後期からの参加者がいれば導入に配慮する。

3. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読

第七節 宇宙論における、理性のじぶん自身との抗争の批判的判定

第八節 宇宙論的理念にかんする純粋理性の統制的原理

第九節 あらゆる宇宙論的観念にかんして、理性の統制的原理を経験的に使用することについて

I 世界全体という現象の合成における、全体性にかんする宇宙論的理念の解決

II 直観において与えられた全体の分割にさいしての、全体性にかんする宇宙論的理念の解決

数学的一超越論的理念の解決に対する結びの注、ならびに力学的一超越論的理念の解決への予備的注意

III 世界のできごとをその原因からみちびき出すさいの、導出の全体性にかんする宇宙論的諸理念の解決

自然必然性の普遍的法則と統合された、自由による原因性の可能性

普遍的自然必然性と結合された、自由という宇宙論的理念の解明

IV その現存在一般という面での、現象の依存性の全体性にかんする宇宙論的理念の解決

純粋理性のアンチノミー全体に対する結語

5. 成績評価方法：訳読、報告、討議、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

（他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。）

7. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修はドイツ語の初等文法を修得した者にかぎる（1 か月程度の自習で臨んでもよい）。

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：城戸 淳

コード：LB64208, 科目ナンバリング：LHM-PHI313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：バーナド・ウィリアムズ『生き方について哲学は何が言えるか』講読

2・授業の目的と概要：「人はいかに生きるべきか」というソクラテスとの問いに、近代の倫理学理論はどこまで答えられるのか。この演習では、ウィリアムズの古典的名著『生き方について哲学は何が言えるか』を邦訳にもとづいて読み、その道德批判を理解することをめざす。

3. 学習の到達目標：ウィリアムズの文章を正確に読みとき、要約して紹介し、批判的に応答する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1章 ソクラテスの問
- 第2章 アルキメデスの支点
- 第3章 基礎づけの試みー幸福
- 第4章 基礎づけの試みー実践理性
- 第5章 倫理学理論のスタイル
- 第6章 理論と偏見
- 第7章 言語論的転回
- 第8章 知識、科学、収斂
- 第9章 相対主義と反省
- 第10章 道德、この特異な制度

5. 成績評価方法：報告、討議、期末レポートによる

6. 教科書および参考書：教科書 バーナド・ウィリアムズ『生き方について哲学は何が言えるか』森際康友・下川潔訳、ちくま学芸文庫、2020 年。（生協に指定しておきます）
（原著 Bernard Williams, *Ethics and the Limits of Philosophy* (1985), Routledge, 2006.）

7. 授業時間外学習：教科書をくりかえし熟読すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：哲学思想演習

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：森 一郎

コード：LB65304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アーレント『精神の生』講読

2・授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの主著の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

＊教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

3. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『意志』第3章第11節（その1）

第3回：『意志』第3章第11節（その2）

第4回：『意志』第3章第11節（その3）

第5回：『意志』第3章第12節（その1）

第6回：『意志』第3章第12節（その2）

第7回：『意志』第3章第12節（その3）

第8回：『意志』第3章第12節（その4）

第9回：『意志』第3章第12節（その5）

第10回：『意志』第4章第13節（その1）

第11回：『意志』第4章第13節（その2）

第12回：『意志』第4章第14節（その1）

第13回：『意志』第4章第14節（その2）

第14回：『意志』第4章第14節（その3）

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

・Hannah Arendt, The Life of the Mind. Two / Willing, Harcourt Brace & Company, 1978

・佐藤和夫訳『精神の生活（下）』岩波書店、1994年

・ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

・ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

・エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アーレント』大島か

7. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

使用言語：日本語

科目名：生命環境倫理学演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 壘

コード：LB65502, **科目ナンバリング：**LHM-PHI314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：コミュニケーションの政治哲学 II

2・授業の目的と概要：応用倫理学の諸分野では、社会の中で人間が行っている活動に対して「～するべきである」「～するべきでない」「～するのが望ましい」「～するのが望ましくない」といった部分を含む様々な道徳的命題を生み出されます。こういった道徳的命題は人々に対して指令の意味を持つため、道徳的命題の中で述べられている望ましい事態の実現を促し、望ましくない事態の実現を妨げるように人々を動かします。では、道徳命題に動かされない人々に対して、道徳命題の正しさを信じ、そういった命題を操る人々は、どのような態度を取るべきでしょうか。法や規則を作って道徳命題に動かされない人々を縛るべきだ、そうではないにしても言葉で厳しく批判して、道徳的命題に従わせるべきだ、と言えるのでしょうか。もしそうなら、なぜそう言えるのでしょうか。ここでは、こういった問題を考えるために、リチャード・ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』を日本語訳を使って読解します。後期には第 III 部「残酷さと連帯」を扱います。

3. 学習の到達目標：1. 哲学的な概念分析の手法に習熟する。

2. 科学的命題や道徳的命題のコミュニケーション手法を考える際に、科学や道徳の偶然性を考慮に入れることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン同期授業として実施する。

1. イントロダクション

2～15. ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』の講読

5. 成績評価方法：授業中の課題に取り組む（60％）、レポート（40％）

6. 教科書および参考書：リチャード・ローティ『偶然性・アイロニー・連帯』齋藤純一他訳、岩波書店、2000 年

7. 授業時間外学習：教科書に目を通すとともに、必要に応じて、関連文献を調べておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：